

PRTRデータ集計結果（平成30（2018）年度）

栃木県環境森林部環境保全課
令和2（2020）年3月

(1) 背景

事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的として、平成11（1999）年7月に「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（化学物質排出把握管理促進法）が公布された。

本法では、政令で定める462種類の化学物質（第一種指定化学物質）を取扱い、かつ、政令で定める届出要件（業種、従業員数、取扱量等）を満たす事業者は、1年間にどのような物質をどれだけ環境中へ排出したか、あるいは廃棄物としてどれだけ移動したかを、県を経由し国へ報告する、PRTR（化学物質排出移動量届出）制度が定められている。

国はそれを集計し、家庭や農地、自動車などから排出される化学物質の量を推計し、合わせて公表することとなっている。

この制度により、事業者が、自ら排出している化学物質の量を把握することによって、化学物質排出量の削減への自主的な取組が促進されることが期待される。

また、PRTR制度で得られたデータを利用して、県民、事業者、行政が、化学物質の排出の現状や対策の内容等について、話し合いながら協力して化学物質対策を進めていくことが期待されている。

(2) PRTR制度による排出量の把握

ア 届出件数

「化学物質排出把握管理促進法」に基づく平成30（2018）年度の第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出事業所数は、表1のとおりであり、本県は全国の約2.1%を占めている。

表1 届出事業所数

年度	栃木県	全国	割合
30（2018）	719	33,669	2.1%
29（2017）	731	34,253	2.1%
28（2016）	729	34,795	2.1%

イ 環境への排出量

平成30（2018）年度の県内の届出排出量と推計排出量を合わせた総排出量は、8,497t（平成29（2017）年度は8,840t）である。届出排出量は全体の51%（同49%）を占め、それ以外から排出される推計排出量は49%（同51%）であった（図1）。

届出排出量の内訳は、大気への排出99%（同98%）、公共用水域への排出1%（同2%）であった。

発生源別の内訳をみると、事業所（製造、販売、サービス業、農業等）からの排出割合が73%（同72%）、家庭から10%（同10%）、自動車等から17%（同18%）であった。

なお、これらの数値については、全ての事業者を対象としていないことや、推計により算出したものも含まれていることなどから、その精度に一定の限界があることに留意する必要がある。

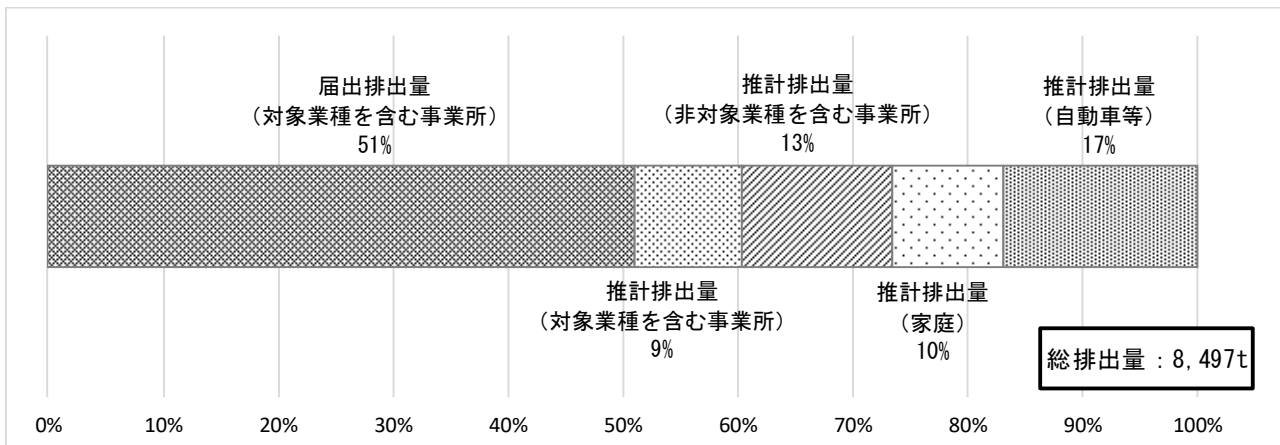


図1 発生源別割合（届出・推計）（平成30（2018）年度）

(7) 届出排出量

a 大気への排出量

県内の事業所から届出のあった大気への排出量4,290t(平成29(2017)年度は4,274t)の上位5物質を図2に示す。排出量の多い物質の主な用途は次のとおりである。

- (a)トルエン：塗料やインキ等の溶剤、ガソリン成分、他の化学物質の合成原料
- (b)キシレン：塗料や農薬等の溶剤、ガソリン・灯油成分、他の化学物質の合成原料
- (c)ジクロロメタン：洗浄剤(金属脱脂)、インキ成分、ペイント剥離剤、溶剤等

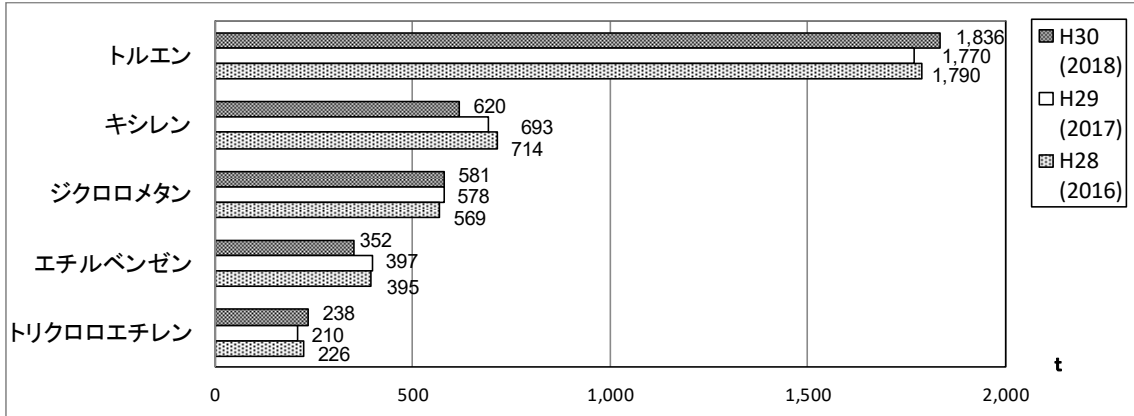


図2 大気への排出量(届出)(平成28(2016)~平成30(2018)年度推移)

b 公共用水域への排出量

県内の事業所から届出のあった公共用水域への排出量51t(平成29(2017)年度は62t)の上位5物質を図3に示す。排出量の多い物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a)ほう素化合物：ガラス繊維用添加剤、消毒剤等
- (b)ふっ化水素及びその水溶性塩：金属・ガラスの表面処理剤、合成原料等
- (c)ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル：界面活性剤、可溶化剤、分散剤

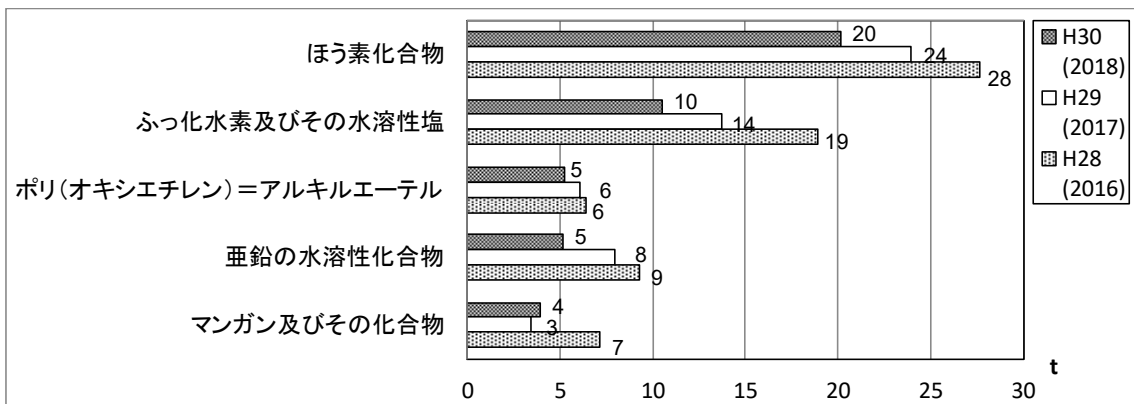


図3 公共用水域への排出量(届出)(平成28(2016)~平成30(2018)年度推移)

(イ) 推計量

a 届出の必要のなかった事業所からの推計排出量

届出要件(業種、従業員数、取扱量)を満たしていないために、届出をする必要のなかった事業所からの推計排出量1,908t(平成29(2017)年度は2,026t)の上位5物質を図4に示す。

排出量の多い物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a)トルエン：塗料やインキ等の溶剤、ガソリン成分、他の化学物質の合成原料
- (b)キシレン：塗料や農薬等の溶剤、ガソリン・灯油成分、他の化学物質の合成原料
- (c)エチルベンゼン：合成原料、溶剤

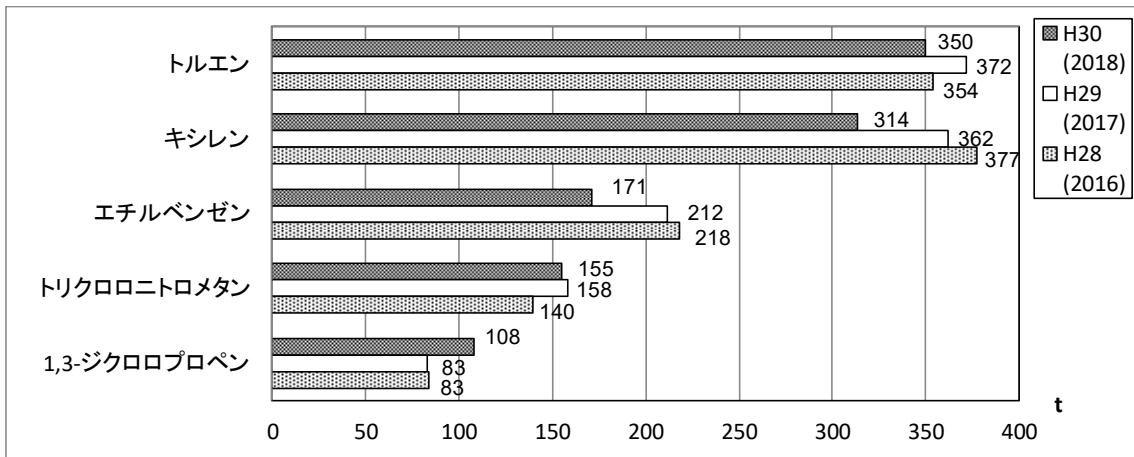


図4 届出の必要のなかった事業所からの推計排出量（推計）（平成28（2016）～平成30（2018）年度推移）

b 家庭からの推計排出量

県内の家庭からの推計排出量817t（平成29（2017）年度は929t）の多い上位5物質を図5に示す。排出のあった物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a)ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル：界面活性剤、可溶化剤、分散剤
- (b)直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩：界面活性剤
- (c)ジクロロベンゼン：合成原料、溶剤、洗浄剤等

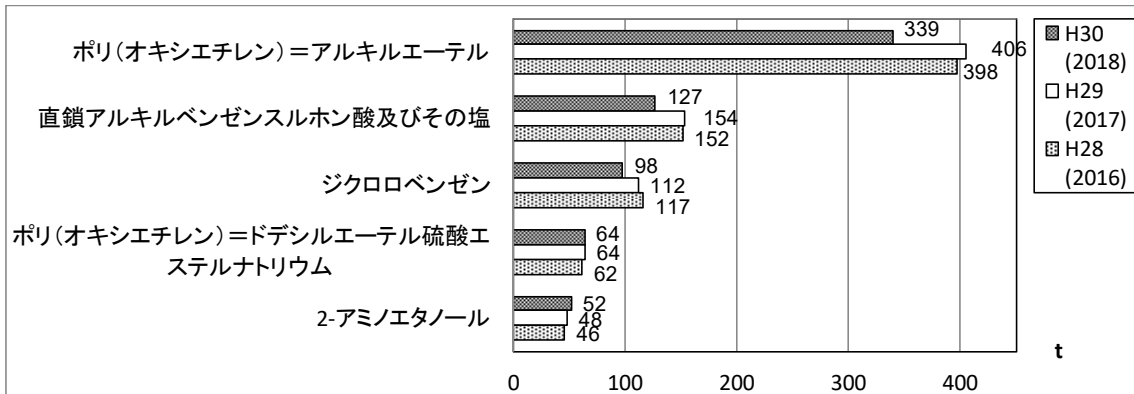


図5 家庭からの推計排出量（推計）（平成28（2016）～平成30（2018）年度推移）

c 自動車等からの推計排出量

県内の自動車等（自動車・二輪車・特殊自動車等）からの排ガスに含まれる推計排出量1,432t（平成29（2017）年度は1,549t）の多い上位5物質を図6に示す。

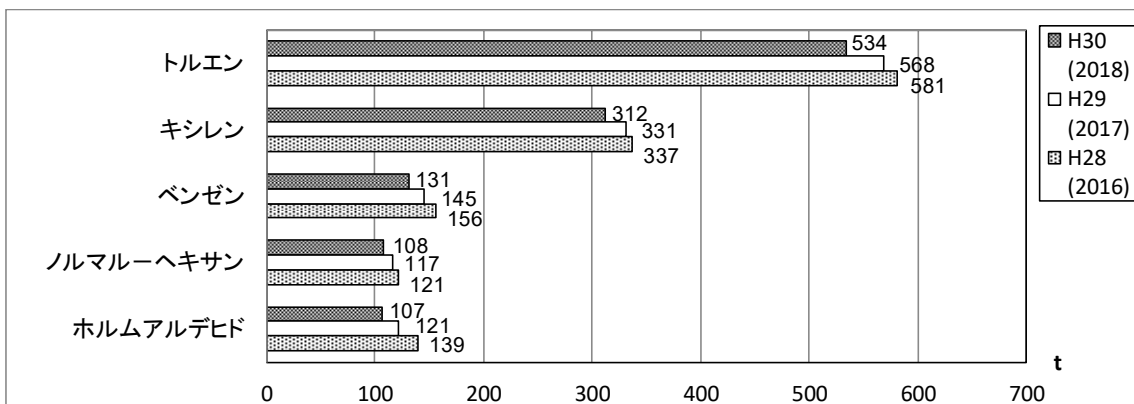


図6 自動車等からの推計排出量（推計）（平成28（2016）～平成30（2018）年度推移）

(3) 市町別排出量

単位：kg（ダイオキシン類はmg-TEQ）

	市町名	届出数 (件)	排出量				排出量 合計	排出量上位3物質					
			大気	水域	土壌	埋立		物質名	排出量	物質名	排出量	物質名	排出量
1	宇都宮市	147	369,774	7,937	0	0	377,711	トルエン	142,103	ノルマルーヘキサン	95,250	キシレン	71,945
2	足利市	51	826,706	3,886	0	0	830,592	トルエン	226,793	ジクロロメタン	170,000	トリクロロエチレン	167,100
3	栃木市	52	241,595	2,796	0	0	244,391	トリクロロエチレン	70,000	トルエン	59,482	キシレン	44,623
4	佐野市	37	596,444	3,800	0	0	600,244	トルエン	500,389	ジクロロメタン	35,900	キシレン	31,682
5	鹿沼市	48	160,487	316	0	0	160,803	ジクロロメタン	68,500	キシレン	30,182	トルエン	28,884
6	日光市	28	57,343	10,593	0	0	67,936	トルエン	54,388	ほう素化合物	6,990	ふっ化水素及び その水溶性塩	2,453
7	小山市	58	348,272	2,827	0	0	351,099	キシレン	132,510	エチルベンゼン	86,244	トルエン	71,988
8	真岡市	42	241,078	8,506	0	0	249,584	トルエン	86,827	キシレン	57,832	エチルベンゼン	24,571
9	大田原市	37	112,446	2,122	0	0	114,568	トルエン	36,706	スチレン	23,124	キシレン	20,376
10	矢板市	12	39,663	162	0	0	39,825	ジクロロメタン	35,000	トルエン	1,997	キシレン	1,651
11	那須塩原市	44	207,933	2,010	0	0	209,943	ジクロロメタン	180,200	ノルマルーヘキサン	12,130	キシレン	5,930
12	さくら市	25	34,196	738	0	0	34,934	トルエン	20,825	1-ブロモプロパン	6,700	ジクロロメタン	5,002
13	那須烏山市	14	299,805	74	0	0	299,879	トルエン	297,314	1-ブロモプロパン	2,300	ノルマルーヘキサン	123
14	下野市	16	19,622	1	0	0	19,623	トルエン	8,671	キシレン	5,527	エチルベンゼン	3,855
15	上三川町	13	320,619	3,814	0	0	324,433	キシレン	106,559	エチルベンゼン	91,225	トルエン	65,871
16	益子町	6	204	210	0	0	414	亜鉛の水溶性化合物	210	ノルマルーヘキサン	130	トルエン	52
17	茂木町	5	174	25	0	0	199	ノルマルーヘキサン	111	トルエン	45	ほう素化合物	25
18	市貝町	5	2,382	1	0	0	2,383	トルエン	1,300	ノルマルーヘキサン	1,000	メチルナフタレン	82
19	芳賀町	11	141,750	0	0	0	141,750	トルエン	47,413	ジクロロメタン	41,800	キシレン	24,486
20	壬生町	14	175,746	124	0	0	175,870	トルエン	171,153	HCFC-225	2,700	エチレンオキシド	500
21	野木町	18	12,460	486	0	0	12,946	ジクロロメタン	8,500	トルエン	2,034	ノルマルードデシル アルコール	1,100
22	塩谷町	3	2,000	26	0	0	2,026	スチレン	2,000	亜鉛の水溶性化合物	26	—	—
23	高根沢町	10	7,090	243	0	0	7,333	トルエン	2,990	1-ブロモプロパン	2,500	キシレン	955
24	那須町	12	10,278	5	0	0	10,283	スチレン	9,600	ノルマルーヘキサン	339	トルエン	178
25	那珂川町	11	61,500	147	0	0	61,647	HCFC-225	51,000	トルエン	6,616	ジクロロメタン	2,800
	合計	719	4,289,567	50,849	0	0	4,340,416						

※四捨五入により端数処理しているため、合計値等の計算結果にずれが生じている場合があります。

※この表は、国が令和2（2020）年3月に公表した排出量の情報を元に作成しています。